



2014年7月22日

発行者:日本ろう者テニス協会

取材/編集:尾形スタッフ

## 派遣メンバー総括

2014年ドレセマエレ杯は結果を残せず幕を閉じましたが、ここでの経験を持ち帰り、これからが本番です。

派遣メンバーの、大会を振り返ってのコメントを紹介します。

### ■男子（台湾戦も含めた総括）

都丸直樹（男子主将）

台湾戦ではシングルスに参加しました。試合前の練習時は自分のプレーに問題はなかったのですが、試合の相手はボールのスピードが遅く、スピンドラフがかかるので構える時間が長く、打点のタイミングが合わなかった為、ミスが目立ってしまいました。2セット目の4ゲーム目からプレーが良くなっていましたが、それでも万全ではなかったので敗戦てしまいました。勝てる相手だったのに、悔いが残る最後の試合になってしまい、日本から応援してくださっている皆さんに大変申し訳ない気持ちで一杯です。

また次の試合で勝つ為にはどう戦略を作るか、どう練習を行うべきかを男子同士でもっと話し合うべきだと反省しています。

台湾戦は1-2(1勝はダブルス不戦勝)で敗戦となり、8位で終わりました。

この一週間を通して、世界レベルの高さを認識でき、各国のプレースタイルを知ることができ、チームワークとして必要な事は何かを学習しました。勿論、悔しい気持ちはたくさんありましたが、日本でいつもの練習で磨いてきた技術は世界では全く通用できないと思い知らされました。帰国したらまず日本にいる皆さんにドレセ・マエレ杯で感じたことをしっかりと伝えたいと思います。テニス技術のレベルアップは勿論のこと、転がった多くの課題を少しずつ解決して、より強いテニスプレイヤーになれたらいいと思います。

榛地英征

台湾との7、8位決定戦ではダブルスに出場予定でしたが、シングルス2試合で勝負がついてしまったので、ダブルスは無しになりました。反省としては選手同士のコミュニケーションが足りなかったと感じました。チームで勝ちに行くという部分で甘さが出てしまったので、二度とこういうことのないようにしたいと思います。

この一週間を振り返ってみて一番感じたことは、世界との実力差がとても大きく大きいことです。世界レベルに追いかくためにはもっともっと努力が必要で、練習内容や取り組み姿勢などを変えていかなければなりません。

ければいけないと思いました。勝つために必要な技術は明確になったので、それをしっかり磨いていきます。ただ、ただ、悔しい…それだけが残る大会でした。

### 鈴木裕将

台湾戦でシングルスに出場しました。前対戦と違うオーダーで挑んだ結果、ダブルスまで勝利を持っていけどシングルス1、2とも敗戦となりました。

経験を積んで勝つために、男子選手組は話し合いでオーダーを変えてしまったのと、ウォーミングアップでお互いの調子をしっかり確認できなかつたことが原因だと思いました。

何故シングルスで一度倒した相手に自分が対戦して勝とうと思わなかつたのか後になって疑問を持ちました。結果、良い報告が出来なかつたので応援してくださつた皆さんに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

最後まで勝つことにこだわりきれなかつたこと、甘い考えが出た自分がとても悔しいです。

この一週間ドレセ・マエレ杯でたくさんのこと学ばせていただきとても感謝しています。この経験を今後のテニス人生に役立てるためには、世界を意識した高いレベルの試合や練習の環境を変えることと、テニスに対する心構えを強く持つことの技術とメンタルの強さがもっと必要だと感じました。日本に帰つたらすぐに取り組めるように自分を変えて強くなりたいと思います。



男子チーム

## ■女子

### 豊田恵子(女子主将)

今大会、女子は8か国中7位という結果になりました。

シングルス1はチームのエースとして、絶対に勝たなければならないポジションなのに、ついに1勝もできませんでした。だからシングルス2の龍野選手のプレッシャーは、他の国のシングルス2の選手より重かったと思います。本当に自分が不甲斐ないです。毎晩コメントを書くのが辛かったです。でもこんな自分に最後までついてきてくださった女子チームには本当に感謝しています。

世界の壁が高いことは、デフリンピックで嫌というほど知っています。知った上での挑戦でしたが、またもや破るどころかヒビを入れることすらできませんでした。むしろ、他の国の若手の急成長で、壁がさらに高くなつたと感じました。技術の差もありますが、勝ちに対するハンガリー精神と日々の努力が、全然足りないと思いました。

今はまだ気持ちを整理しきれていません。明日、日本に帰るというのに正直あまり嬉しくありません。でも、やるべきことはわかっています。それは「自分が変わってくこと」と「周りを変えていくこと」です。現状を変えるのは勇気が必要ですが、それを積極的にしていかないと、世界の壁はいつまでたっても破れないと思いました。

日本から応援してくださった皆様、まことに有難うございました。良い結果を持ち帰ることができず、申し訳ございません。皆様からのエール、本当にうれしかったです。

### 龍野由佳

試合の最後の日は、女子に試合はなく、男子チームを応援したり、自主練習をしたりしました。また決勝戦を見て、シングルスやダブルスにおける勝つための技術やパターンを観察しました。“入れて繋ぐ”ことや“積極的なポーチ”が重要であり…特に台湾女子チームから「守りは最大の攻撃」だということをプレーを通して学ばされました。

今大会に出場した1週間を振り返ってみると、ただ悔しいことしか思い浮かびません。自分の技術のなさもちろん、気持ちのコントロールがまだまだ甘いということを痛感しました。でも、今大会では内藤ジャパンのみんなと一緒に出場して良かったと思います。出場しなければ、この想いは出来なかつたと思います。この悔しい想いを持ち帰って、今後の活躍に活かしたいです。そして、応援していただいたみなさんに良い結果を報告出来ず…申し訳ない気持ちでいっぱいですが、応援してくれたことに大いに感謝をしたいです。

### 尾形滋子(スタッフ兼任)

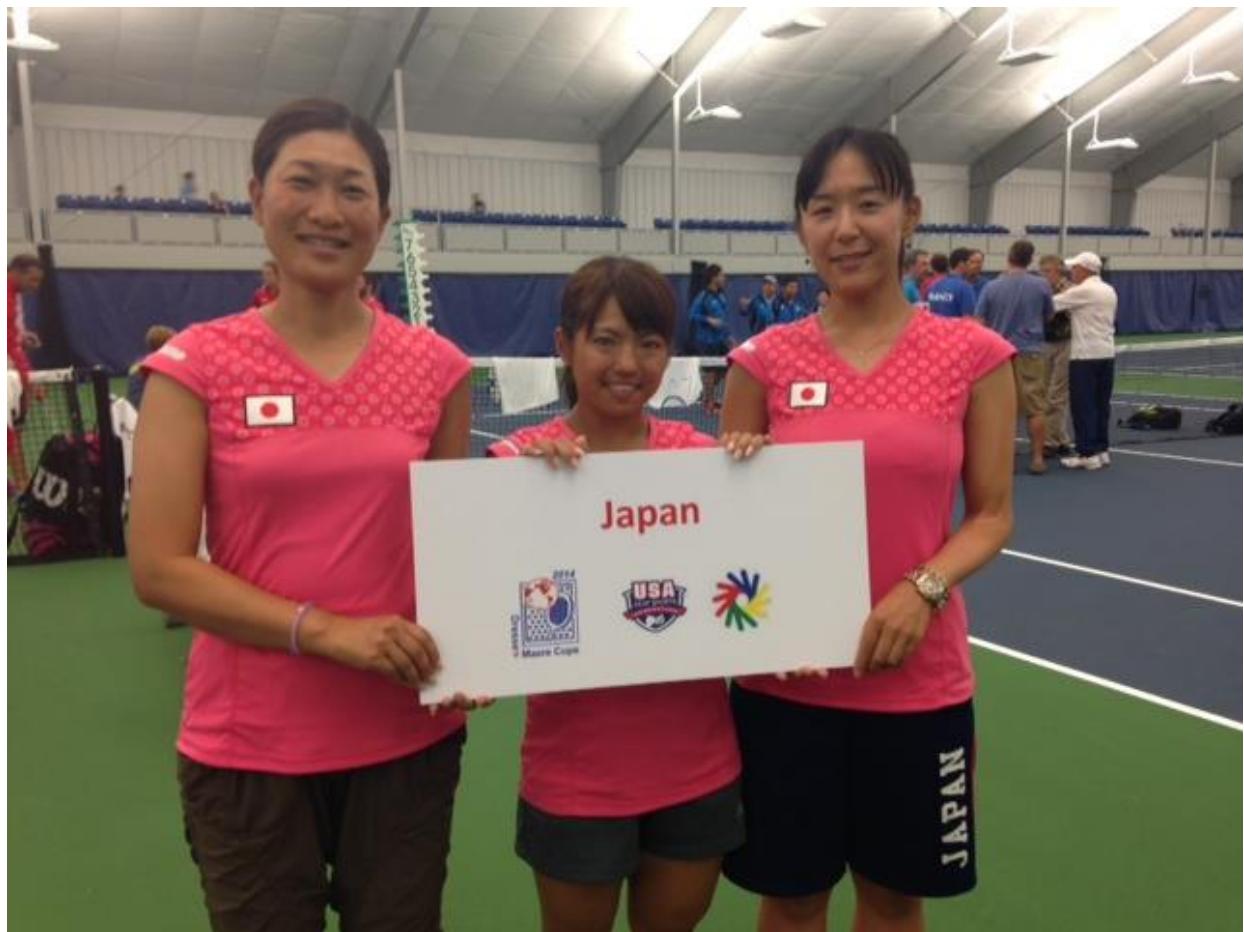
今大会では、チームをサポートする立場として、スタッフ業務、女子のベンチコーチ、補欠選手の役目がありました。この3つの役割の両立は、体力はもちろん心構えの面で想像以上に容易い事ではありませんでした。

今回初めてベンチコーチを務めました。はるかに実力差のある相手との対戦の中で、「これだけは出来た！」と言えるものがあるよう選手と一緒にテーマを決めて試合に臨みました。

しかし、それは「絶対勝つ！」という気持ちに繋がるものではありませんでした。選手をリラックスさせることと、気持ちを強くもつよう喝を入れることの区別ができていなかったことは、非常に反省しています。悔やんでも悔やみきれません。

苦しみながらも辛抱強く女子チームを引っ張ってくれた豊田さん、どんなに怒られても泣いても、弱音を吐くことなく最後までついていった龍野さん。今回できなかつたことや悔しい経験を、きっと今後へのバネにすることと思います。

毎朝毎晩、日本からチームの皆さんに叱咤激励してくれていた梶野事務局、斎藤強化対策部長、そして日本から応援してくださっていた皆さん、本当にありがとうございました。



女子チーム

■コーチ 内藤公広

ドレセ・マエレ杯 2014チャタヌーガ  
まとめ

前回のトルコではその時の最強の日本代表として戦いました。

今回は新人選手を中心にこれから最強の日本代表になるべく世界のレベルを経験しながら練習し結果を出していく目的がありました。

遠征を終えて、いくつかの成果といつかの課題が残る結果となりました。

成果としては

心技体の全てにおいて素晴らしいプレーができたことです。  
女子はインド戦、男子はアルゼンチン戦です。

課題としては  
その素晴らしいプレーが続かなかったことがあります。  
女子のドイツ戦、男子のイギリス戦、台湾戦です。

3歩進んで2歩下がるといった感じです。

彼らのスタートはこれからです。  
この経験を活かすも殺すも彼らにあります。

応援していただいた皆様、ぜひ今後も

都丸

榛地

鈴木

豊田

龍野

を厳しい目で見守り変わらぬ応援をよろしくお願い致します！

ありがとうございました！

Naito, Kimihiro  
Japan

Captain



内藤公広コーチ